

令和８年度 学校評価報告書（目標設定・実施結果）										
	視点	４年間の目標 (令和6年度策定)	１年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (月 日実施)	総合評価（ 月 日実施）	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1	教育課程 学習指導	①学校のミッションや生徒の実態、ニーズに即した魅力と特色づくりを推進する。 ②インクルーシブ教育実践推進校として、豊かな心や創造性の涵養を目指した教育の充実に努める。 ③持続可能な社会の造り手として必要な資質・能力を育成するため、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善に努める。	①新教育課程の実施に伴い、生徒のニーズ及び選択科目の設定等に関して学校教育目標との整合を検証する。 ②インクルーシブ教育実践推進校として、共生社会の実現を目指して全ての生徒に対してインクルーシブな取組を構築し、組織的に実践する。 ③ＩＣＴ機器を効果的に利活用し、基礎学力の向上を目指すとともに生徒の主体的な取組を重視した授業改善を目指す。	①生徒による授業評価や進路の結果、選択科目履修者数等から生徒のニーズを把握し、次回の教育課程編成の検討に必要なデータを蓄積する。 ①修学旅行や校外学習等について、学校教育目標を踏まえつつ、学校全体の考え方、社会情勢、生徒のニーズを鑑みながら検討する。 ②全校生徒対象の講演会及び教員対象のインクルーシブ講演会を実施する。 ③研究授業や教員相互の授業観察を推奨し、ＩＣＴ機器を利活用した生徒の主体的な取組を模索できる機会を提供する。	①生徒による授業評価や魅力特色アンケートは、肯定的な意見であったか。また、生徒が希望する進路と教育課程に整合性があるか。 ①実際に引率した学年団と情報を共有し、３年程度の期間ごとに実施方面を検討する。 ②講演会のアンケート結果が、共生社会の実現に向けて前向きな意見であったか。また、講演会の内容は、授業や生徒対応に反映することができたか。 ③教員相互の授業観察や意見交換、研究授業を行うことができたか。また、生徒の主体的な取組を促すことを目的としたＩＣＴ機器の利活用ができているか。					
2	生徒指導・支援	①他者を思いやり、尊重できる自立した生徒、自らの夢や目標に向かって果敢にチャレンジできる生徒、心身ともに健やかで、逞しい生徒の育成を図る。 ②規律と秩序のある生徒指導。きめ細かい支援を確立し、一人ひとりが正しい道徳観や社会性を醸成できるような体制を構築する。	①学校行事、委員会活動や部活動を通じて生徒主体の活動経験を積み重ね、成功体験や失敗体験を通し、生徒自身が様々な状況に対して適応できる思考力、判断力や行動力を向上させる。 ①生徒一人ひとりが多様性とインクルーシブな考え方を醸成し、協働した学校行事への取り組みになるよう工夫をする。 ①合理的配慮による学習面や生活面での包括的な支援を、ＩＣＴ機器の利活用により実践する。 ②学校生活での規律徹底や挨拶、マナーの向上と公共交通機関や自転車乗車マナーを向上させ、お互いを思いやる気持ちを醸成する。 ②教育相談係とＳＣ、ＳＳＷとの連携の強化及び生徒情報の共有をさ	①生徒主体の活動機会を広げ、様々に変化する状況を理解し、自ら進んで工夫を重ねられるように支援する。また、他学年との交流を図り、多様性を意識し、個を尊重できる態度が醸成できるよう支援する。 ①デジタルサイネージを日常的に活用し、一日のスケジュールや連絡事項、各学校行事や部活動の成果などを積極的に発信する。 ②ポスター制作やあいさつ運動、マナーアップキャンペーン、スクエアード・ストレート方式による自転車安全教育や各講演会等を活用し、交通安全に対する意識やマナーの向上と他者を思いやる気持ちを醸成する。 ②個々の生徒に対して組織的な対応ができるよう家庭とＳＣ、ＳＳＷや外部機関との連携体制を構築する。	①学校行事等を運営する中で、生徒主体の活動を行うことができたか。生徒総会をはじめ、委員長会、部長会等のリーダー主導の活動を行うことができたか。 ①他学年との交流ができる行事を行うことができたか。 ①デジタルサイネージにより生徒の学校生活における行動が円滑になったか。学校行事では、多様な生徒が主体的に取り組むことができたか。 ②それぞれの講演会等を実施した上で、意識調査などの振り返りを行い、生徒へのフィードバックを行うことができたか。 ②教育相談係とＳＣ、ＳＳＷと家庭・外部機関の連携体制の構築ができたか。 ②社会生活を想定しつつ、より良い人間関係の構築について、日常的に学年や担任から指導があったか。					

	視点	4年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (月 日実施)	総合評価 (月 日実施)	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
			らに図る。							
3	進路指導・支援	生徒一人ひとりがより良い進路選択ができるような能力の育成、および生徒・保護者等に対して適切な内容と量の情報を受け取れるような機会の充実を図る。	①総合的な探究の時間の内容や進路説明会の在り方を、生徒の様々な進路選択に最適化できるよう再検討し、より高い進路目標に向けた計画的な取組を推進する。 ①主に英語の資格・検定試験に関して、目標達成への後押しをし、その成果を進路選択に生かすことができるような進路指導体制を構築する。	①生徒自らが適切な進路選択が行えるよう、進路先となる上級学校等と交流する機会を増やすとともに総合的な探究の時間における進路実現計画の充実を図る。 ①資格・検定試験に関する広報を充実させるだけでなく、英語科と連携した指導・支援を実践する。	①前年度と比較して、進路先の説明会や交流会の機会を増やすことができたか。 ①具体的な指導・支援を実践することができたか。 また、英語の資格・検定試験の合格率が上昇したか。					
4	地域等との協働	①地域との交流や協働、地域貢献等を通じて、地域と共にある学校づくりに取り組む。 ②在校生と保護者等地域社会に対して、本校の教育活動についての理解を深めてもらうための情報発信を行う。	①地域の中学校と連携し、中学生の進路学習への協力と本校の教育活動の発信を行い、地域と協働した取組を進める。 ①本校の魅力を地域に発信する場面で、生徒を含めた積極的な広報活動を実施する。 ②ホームページについて、インクルーシブ教育の発信および入学希望者や保護者等のニーズを想定し、学校の魅力を的確に伝えられるように更新を進める。	①チャレンジスクールや中学校から依頼の説明会を受入れ、学校説明や授業見学を通して、高校へ進学する目的や希望する高校生活について考える機会を設定する。 ①生徒に霧コンシェルジュへの参加を推進し、全公立展や学校説明会等において生徒主体な広報活動を行う。また、地域における本校の理解を推進するため、広報グッズの製作を行う。 ②トップページおよび各メニューのコンテンツを、閲覧しやすい構成に更新する。インクルーシブ教育、学校行事、部活動等、魅力を伝えるページについて積極的に更新を行う。	①地域の中学校と本校が連携する進路学習について、持続的な連携を行う体制が築けているか。 ①霧コンシェルジュによる生徒の活動や広報グッズの提供をきっかけに、本校に対する理解が推進されたか。 ②ホームページの全体的な整備を行うことができたか。また、魅力を発信し本校への関心を高めることができたか。					
5	学校管理 学校運営	①保護者・地域から信頼され、生徒が安心して学べる安全で快適な学校づくりを行う。 ②自他の生命を尊び、大きな災害にも対応できる高い防災意識を育む。 ③不祥事や事故を未然に防止する職場環境づくりを行う。	①創立50周年を機に、生徒が本校を誇りに思う心を育むとともに、学習環境の改善を図る。 ②災害に対する危機意識と自他の生命を尊重し、自ら考えて行動できる意識を醸成する。 ③安全・安心で信頼される学校づくりに向けた人材育成と資質の向上を図る。	①50周年記念事業実行委員会が計画する記念誌発行や施設整備事業を、各グループや学年団間の緊密な連携を図りながら円滑に実施することにより目標を達成する。 ②教員が速やかに防災体制をとれることを示して生徒を指導できるように、写真を活用した防災用品一覧を作成して効率化を図ることにより目標を達成する。 ③組織的に相談しやすい職場環境を整え、学校目標に応じた業務や組織体制の構築をすることにより目標を達成する。	①記念誌発行や施設整備事業を円滑に実施することができたか。 ②防災訓練において、防災体制完了までの時間が短縮されたか。 ③教職員へのアンケートでほとんどの教職員が相談しやすく、働きやすい職場環境になったと回答したか。					